

真光寺川をきれいにし、真光寺川を楽しもう！

真光寺川を清流にする会 世話人 山口 拓郎

記録的な酷暑が続いた夏だった。そして秋をバスしていきなり冬がやってきた。この3ヵ月、私共は二のイベントを実施することができた。大げさにいうと試練の連続だった。しかし、会員各位の結束と周囲の支援で乗り切ることができた。ふり返り記録に留めておきたい。

真光寺川まつり

1 きっかけ

清掃を始めて3年がたった。昨年「里親の会」もスタートした。小中学校との交流もできてきた。「めだか基金ポスト」に寄せられた善意をいい形で真光寺川にお返ししたい、そんな思いから「まつり」の構想が浮上してきた。年頭の「里親通信」に本年度の目標に掲げた。

2 議論百出、案を練る

初体験は楽しいものだ。夢がどんどん膨らんで行く。その多彩さに戸惑いを覚えることもあった。しかしその7割方は実現したように思う。議論しているととかく大人の発想に陥りがちだったが「子供たちには『白くありませんよ』と平野先生にたしなめられる一幕もあった。「エコゾーリ作り」はたまたま犬の散歩の途中いこい会館に立ち寄った中村さんから提案されたものだ。町内会の盆踊りとの共催という魅力的案もあったが時期尚早と見送られたことは残念だった。

3 天気が気がかり

正直いって準備は大変だった。ウォークラリーのカード作りに苦心した山本さん。エコゾーリの講習会を開いて下さった中村さん。Tシャツ制作に奮闘した二田さん。魚の解説図を作った山岡夫妻。

竹の水鉄砲作りに汗を流した田島、杉原さん。マップ・チラシ作りに奔走した笠井、高橋さん。そして徹夜で作品展示に当たった小川さん。その他諸々、誰も労をいとわなかった。

エコネットの会員各位の支援も心強かった。それに先生方の協力なしには実現しなかったであろう。とりわけ和光鶴小の大川先生には全面的にお世話になった。

前日、不気味な雲の流れが気がかりだった。ひたすら天気を願った。

4 そして当日

夜が明けた。雲間からかすかに青空のぞき先ずはホッとする。早朝そろいのTシャツで集合、準備にかかる。松尾さん制作の横断幕を吊し、「落書き」用のシートを張って「まつり」の気分がでてる。思いがけず伊藤公介さんも見える。シートに漫画を描く。気さくな方だ。



出足が懸念されたが親子が集まってくる。辰濃さんもカメラをさげて見える。

9時30分、予定通り開会。下水道局の清水課長があいさつして下さい。ウォークラリーの一隊50名が元気にスタートして行く。

親水は華やかな彩りに満たされる。水質の検査、松前さんの解説に熱心に聞き入る者。

浅瀬でのささ舟レースに熱中する水着姿の幼児。

なんとといっても魚取りが人気があった。ヨシノボリ・カマツカ・ドジョウ・ザリガニそして大きなコイ。岸のプールが獲物で満たされて行く。

一方、会館では屋外の縦1、2m・横15mのシートが子供たちの奔放な落書きで埋まっていく。気持がいい。

館内では小学生の作品の展示。真光寺川の魚、鳥、爬虫類の奇抜な写真の数々。和室では奥さん方がエコゾーリ作り、参加者の評判は上々だった。

11時、5カ所のチェックポイントをクリアしたウォークラリーの一行が元気な姿を見せる。早速、親水で賞品のTシャツと桜美林高校の野球帽獲得にジャンケンポン。

12時、プールに捕獲した魚達を川へ返す。大きなコイが子供の腕の中で跳ねた！まつりのフィナーレは和光鶴小のお母さん方の勇壮な和太鼓。川面にこだました。

終わって会館で懇親会。冷たいビールが腸にしみた。里親の生みの親辰濃さんから「真光寺川も以前よりきれいになった」というありがたい言葉を頂戴した。

心残りはわざわざ車椅子で来て下さった障害者の方々を充分おもてなし出来なかったことだった。

クリーンアップ作戦2002

会員の間に「鶴見川流域ネットのクリーン作戦」に参加したいという声があった。

ごみ収集の都合から今回ようやく独立した拠点にして頂けた。



開催当日の様子は山本さんのレポートがあるので割愛したい。

今年で第9回ということで本部の意向として「プラス・ワン」が掲げられた。清掃作業もさることながら参加を契機に川に親しみ関心を高める工夫をしてほしい、ということだった。私共としては勿論異存はない。「真光寺川まつり」の経験にもとずき協力して準備にとりかかった。

最も腐心したのは当日の動員計画である。できるだけ子供たちに多く参加してもらいたい、そんな思いだった。

他の拠点では実績を重ね、地域のボーイスカウト、ガールスカウトの組織的参加がある。私共は初参加でそれが皆無である。

趣意書を作成しこれまで交流のある小中学校7校へ送付する。引き続きチラシを作りお願いを添えて送付する。

幸い鶴小では4年の丸山先生のクラスで「真光寺川のこころ」をお話する機会を作って下さった。150名の子供たちから矢継ぎ早の質問があった。確かな手応えを感じた。

投網、四つ手網、プール等機材についてはまた全面的に和光鶴小の大川先生に協力頂いた。

当日は快晴、クリーンアップ日和だった。実行委員として岸先生も見え投網を打ったり魚の解説をしたり大活躍だった。

80名近い親子連れが参加し下堰親水に華やいだ歓声がこだました。